2025年度版教員採用試験「過去問」シリーズ正誤表

2024年4月25日

弊社の出版物に以下の誤りがありました。謹んでお詫びするとともに、下記のように訂正いたします。

協同出版

◆正誤表に掲載されていない正誤に関する疑問点がございましたら，下記項目をご記入の上，電子メール，FAX，または郵送にてお送りいただくようお願いいたします。
①　書籍名，都道府県(学校)名，年度
教員採用試験シリーズの場合は過去問，参考書等もご記入ください。
（例：東京都教員採用試験過去問シリーズ　小学校教諭　20〇〇年度版）
②　ページ数、問題番号
書籍に記載されているページ数、問題番号をご記入ください。
③　正誤についての問い合わせ内容
内容は具体的にご記入ください。（例：問題文では“ア～オの中から選べ”とあるが，選択肢はエまでしかない　など）

〔送付先〕
〇　電子メール：edit@kyodo-s.jp
〇　FAX：03-3233-1233 （協同出版株式会社　編集制作部　行）

県名	教科	年度実施問題	頁数	大問	箇所、行	誤	正
福島県	英語科	2024	29	【中高共通】3～5	解答・解説		別紙参照
福島県	英語科	2024	32	【中学校】1	解答・解説		別紙参照
福島県	英語科	2024	33	【高等学校】1	解答・解説		別紙参照
兵庫県	音楽科	2024	22	3	解答	1　⑤，⑥，⑧、⑩	1　⑤，⑥，⑧、⑪

foreign language and considering the listener, reader, speaker or writer.

A　ア　advanced　　イ　communicative　　ウ　grammatical
　　エ　international
B　ア　interacted　　イ　integrated　　ウ　interpreted
　　エ　interrupted
C　ア　abstract　　イ　public　　ウ　social
　　エ　technical
D　ア　autonomously　　イ　courageously　　ウ　inquisitively
　　エ　reluctantly

(2)　文中の下線部の空所①～③には，それぞれ同じことばが入る。①～③に入ることばの組み合わせとして最も適当なものを次のア～エの中から1つ選び，記号で書きなさい。

	①	②	③
ア	goals	procedures	situations
イ	goals	scenes	regulations
ウ	purposes	procedures	regulations
エ	purposes	scenes	situations

(☆☆☆☆◎◎◎◎)

解答・解説

【中高共通】

【1】Part 1　No.1　A　　No.2　C　　No.3　A　　No.4　B　　No.5　C
No.6　A　　No.7　C　　Part 2　No.1　A　　No.2　C　　No.3　D
No.4　B　　No.5　B　　Part 3　1　an urgent call for action
2　strategies that improve health and education

〈解説〉Part 1　No.1　質問のavailable twenty-four hours a dayに着目する。24時間対応が可能であるかを尋ねているので，「はい，ウェブサイト上で」と答えている。　No.2　質問のWhoに着目する。修学旅行についてプレゼンをした人が誰かを尋ねているので，「旅行代理店の人」と答えている。　No.3　質問のWhenに着目する。生徒会選挙の時期を尋ねているので，「9月の初めに」と答えている。　No.4　質問のWhyに着目する。道が混んでいる理由を尋ねているので，「バスケットボールの試合がある」と答えている。BecauseがあるからといってAに飛びつかないようにしたい。　No. 5　質問のworking, isn't itに着目する。コピー機が動いているかを尋ねているので，「いいえ，それは昨日から故障中です」と答えている。No. 6　質問のWhat should I prepareに着目する。勉強会のために何を準備すべきかを尋ねているので，「スミス先生がもう全部やってくれたのではないかな」と答えている。
No. 7　質問のHow muchに着目する。セーターの値段を尋ねているので，「すみません，今忙しいです。タグに書いてあるはずです」と答えている。　Part 2　No. 1　発話の2文目に着目する。相手が博物館で働くことに興味があり，現在その募集を行っていることがわかる。No. 2　発話の3文目の後半に着目する。ケンはインターネットで見たような経験をしたいと思っていたことがわかる。　No. 3　発話の3文目の後半に着目する。新しくできた映画館に行ってほしいと言っていることがわかる。　No. 4　発話の2文目の後半に着目する。学生旅行センターの紹介をしていることがわかる。　No. 5　発話の1文目と5文目に着目する。学校は今日(金曜日)の午後に休校となることがわかる。
Part 3　まとまった英文を聞き，空欄に入る語句を書き取るディクテーション問題である。空欄以外の英文は問題用紙に印刷されている。放送は2回ある。1つ目の空欄は直前にあるwhich areに着目すると，SDGsに関する説明に関する語句が続くことが推測できる。また，2つ目の空欄は直前にあるwithに着目すると，直後に続くのが名詞または名詞句であり，また，空欄の直後にreduce inequality, and spur economic growthとあることから，空欄の後半はこれらと並列する動詞または動

詞句で終わることが推測できる。

【2】A (1) エ (2) ウ (3) イ (4) ア B (1) ① ア ② イ (2) ① オ ② ウ (3) ① エ ② オ

〈解説〉A (1) 英文は「辞書でcf.を見たら，その単語を別の単語と比較すべきだの意味である」の意である。cf.は「参照しなさい」を意味するラテン語の略語である。 (2) 英文は「昇進を申請する前に，従業員はアシスタント・マネージャーに報告することが求められている」の意である。be required to～は「～することが求められている」の意味である。 (3) 英文は「X：すみません。ここに座ってもいいですか」,「Y：どうぞ。その席は空いていますから」の意である。Do you mind～に対しては許可を出す場合はNo(私は気にしない)」で答える必要がある。 (4) 英文は「X：家に帰る途中で急に激しく雨が降り出して，びしょぬれになってしまった」,「Y：私のアドバイスを聞いて傘を持っていけばよかったのに」の意である。heedは「(助言などを)聞き入れる」の意味である。 B (1) 完成した英文はIt is this question that I want you to solve.である。空欄前にあるIt is this questionと，選択肢にあるthatから強調構文であることに気づけるとよい。

(2) 完成した英文はWe have to keep trying, no matter how tired we are.である。no matter how＋形容詞で「どんなに～でも」の意になる。空欄前にあるnoと選択肢にあるmatterと疑問詞に着目するとよい。

(3) 完成した英文はThis year's wheat crop is estimated to be 20 percent less than that of a normal year.である。that of＋名詞は，前述の名詞句を指すときに使用する表現である。また，選択肢にあるlessとthanに着目するとよい。

【3】解答例1(agree)：I agree that schools should ban students from using translation applications in English classes for the following two reasons. To begin with, translation apps may discourage students from thinking independently. With these apps, students can easily make sentences without

understanding them. So, students might be deprived of the chance to independently express themselves and be creative. In addition, some translation apps can't translate adequately well. Such poor translations only make students more confused.　For these reasons, I think it would be a good idea to ban students from using translation apps in English classes. (94 words)

解答例2(disagree)：I disagree that schools should ban students from using translation applications in English classes. I have two reasons to support this opinion.　Firstly, these apps will make students more motivated. Such apps make it easier for students to express what they want to say. This should encourage them to use English more. Secondly, students can quickly learn various expressions by using those apps. These will make students faster at translating what they want to express. This makes it possible to set aside time to learn even more expressions.　Therefore, I disagree with banning translation apps in English classes. (98 words)

〈解説〉英語授業における翻訳アプリの使用に関する意見について，2つの理由と併せて80～100語で書くことが求められている。一見すると難しいように思えるかもしれないが，主張，展開そして結論の形で構成が指示されているため，トピックセンテンスから始まる基本的なパラグラフ構成で書けばよい。展開に書く2つの理由から逆算して，賛成または反対のどちらの立場を取るか決めればよく，結論は理由を踏まえて主張を言い換えて表現すれば十分である。

【４】(1)　C　　(2)　B　　(3)　A　interact　　B　different / various

(4)　with a group that works well together without any　　(5)　A

(6)　B，D

〈解説〉(1)　空欄の前の文に着目すると，教師が前向きで，幸せで，休養が取れており，そして意欲があれば，そのグループも同じようになると述べられている。従って，「うつりやすい，伝染性の」を意味するCが正解。　(2)　下線部の次の文に着目すると，positive group dynamicsの有効性として，一緒に取り組むことで生徒たちに対象言語

でやり取りをさせることができ，学習者が声を出して話すときに感じられることが多い自意識を最小限にすることができると述べられている。このことから下線部は，人々が一緒に取り組んだりお互いにやり取りしたりする状況のことである。 (3) 下線部はその直前にある文の内容を指していることに着目すればよい。すると，国際的または多文化的な学習環境におけるグループワークは，世界中の人がやり取りをする機会を提供し，学習者は異なる価値観，期待そして信念を持つ人々と接することになると述べられている。この中で使用されている語をそのまま使うことができる。 (4) 完成した英文はEvery teacher knows that it is much easier and more comfortable to work with a group that works well together without any friction.であり，「軋轢なく協力し合える集団で仕事をする方がずっと容易で快適であることを，どの教師もみな知っている」の意である。関係代名詞のthatに着目し，worksの主語がa groupであることに気づくとよい。 (5) 空欄部はpositive group dynamicsで言語学習を行うことのメリットとして，効率的な言語使用に加えて何があるかを考えればよい。設問(2)の下線部の箇所で述べたように，positive group dynamicsは言語面だけでなく感情面にも好ましい影響がある。従って，「グループの絆とクラスの雰囲気を強化する」を意味するAが正解。 (6) まず，Bについては全体として繰り返し述べられているが，第4パラグラフの3文目に対応する記述がある。次に，Dについては第5パラグラフで箇条書きされている項目の6つ目に対応する記述がある。

【5】(1) C (2) A (3) D (4) B (5) C (6) A，D (7) D

〈解説〉(1) 下線部の直前に着目する。色は客観的なものであると述べられており，それを言い換えた形になっている。「物体や物体から反射する光の物理的な性質」という意味になる。 (2) 空欄の直前にThis is whyとあることを踏まえ，空欄の直前の文に着目すればよい。色というものは存在せず，それを認識する人が存在するだけであると

述べられており，人によって色の認識が異なるというAが正解。今回は空欄の直後が空欄部の言い換えになっており，そちらに着目してもよい。　(3)　空欄の直前と直後に着目する。直前では，雄牛を含む哺乳類は赤緑色覚異常であることが述べられており，直後では，雄牛は布地の動きに激怒していることが述べられている。従って，雄牛は色を認識できていないという意味になるDが正解。　(4)　空欄はこの問題の原因の1つに当てはまるものである。この問題というのは，直前の第6パラグラフに述べられているが，色は人間が明らかだと思っているように客観的なものではないことである。そして，空欄の直後に着目すると，英語では色空間を11の用語(黒・白・赤・黄・緑・青・紫・茶・灰・オレンジ・ピンク)に分けているが，他の言語ではやり方が異なると述べられている。従って，空欄に入るのは言語を意味するBが正解。　(5)　空欄の直前と直後に着目すると，まず空欄の直前では，色に関する用語は話し手の脳内，つまり話し手の認識で決まると述べられている。次に，空欄の直後では，空欄の具体例が述べられており，熱心な農民であったアステカ人は緑色を表す用語を十数個も使用しており，エチオピアのムルシ族の牛飼いは，牛の色について11個の用語を持っているが，そのほかの色の用語はないと述べられている。従って，「人々は一般的に，社会的あるいは文化的に重要であると考える色にのみ名前をつける」を意味するCが正解。　(6)　まず，Aについては全体として繰り返し述べられているが，第2パラグラフの2文目に対応する記述がある。次に，第10パラグラフの3文目にDに対応する記述がある。アメリカでは赤が保守的で青が進歩的であるが，ヨーロッパではその逆であると述べられている。　(7)　英文のタイトルとして適切なものを選ぶ問題である。色は客観的なものではなく，それを認識する人によって異なることが英文で繰り返し述べられている。従って，それを反映しているD「なぜ色は見る人の目に映るのか」が適切。Aは部分的には正しいものの，英文全体のタイトルとしては不適切である。

【中学校】

【1】(1) ① 見方・考え方 ② 活用 ③ 目的や場面
(2) ① 即興 ② 気持ち ③ 感じたこと (3) ① c
② c ③ d ④ a

〈解説〉(1) まず，空欄①の「見方・考え方」については，現行の中学校学習指導要領の重要キーワードのひとつである。「見方・考え方」を働かせることは，深い学びを実現する鍵であり，外国語科以外の各教科等でも共通して示されている。次に，空欄②と空欄③であるが，(1)が知識及び技能に関する目標，そして (2)が思考力，判断力，表現力等に関する目標であることを踏まえればよい。生きて働く知識及び技能の習得が求められていることから，空欄②は「活用」が正解である。また，空欄③は直後にある状況に着目すれば，「目的や場面」が正解であることがわかる。 (2) まず，空欄①は小学校の外国語科における目標を受けて設定されたものである。小学校では「自分のことについて，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする」となっていたものを，中学校では「即興で話すことができるようにする」ことが求められている。次に，空欄②も小学校の外国語科における目標を受けて設定されたものである。小学校では「身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする」となっていたものを，中学校では「事実や自分の考え，気持ちなどを整理した上で，まとまりのある内容を話せるようにする」ことが求められている。最後に，空欄③は社会的な話題に関するものであり，それに対する「自分なりの意見や感想などを，理由などとともに表現できるようにすること」が求められている。 (3) まず，空欄①は「授業は英語で行うことを基本とする」に着目すればよい。日常生活では英語に触れる機会が限られている日本の言語環境を踏まえ，授業を実際のコミュニケーションの場面にする必要がある。次に，空欄②は「他の教科等で学習したことを活用したり，学校行事で扱う内容と関連付けたり」に着

目すればよい。他教科等で学んだことを活用させる場面を考えれば，言語活動であることがわかる。さらに，空欄③は音声指導に関するものである。小学校では「音声と文字とを関連付けて指導すること」とされていたが，中学校では「発音と綴りとを関連付けて指導すること」となっている。いわゆるフォニックスのことである。最後に，空欄④は「個々の生徒の特性に応じて」に着目すればよい。活動の目的に応じて様々な学習形態を活用していくことが求められているが，授業の中心となるのは生徒間のコミュニケーションである。その点を踏まえればよい。

【高等学校】

【１】(1)　A　イ　　B　イ　　C　ウ　　D　ア　　(2)　エ

〈解説〉外国語科の目標に関する問題である。高等学校学習指導要領「外国語科」と「英語科」の英訳版については，文部科学省のウェブサイトに公開されている。本問では，代表的なキーワードやキーフレーズが出題されているので，どのように訳されているか日本語版と対照しながら確認しておきたい。なお，本問では全て選択肢が与えられているため，英訳版を見たことがなくても，日本語版の学習指導要領を踏まえれば解答できるだろう。　(1)　空欄Aは空欄直後のcompetenciesに着目すればよく，「コミュニケーションを図る資質・能力」と対応するイが正解。次に，空欄Bは空欄直後のlanguage activities which combine these skillsに着目すればよく，「これらを結び付けた統合的な言語活動」と対応するイが正解。さらに，空欄Cは空欄前後にあるeveryday andとtopicsに着目すればよく，「日常的な話題や社会的な話題」に対応するウが正解。最後に，空欄Dは空欄直前にあるa willingness to communicate proactively andに着目すればよく，「主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」に対応するアが正解。　(2)「目的や場面，状況など」に対応する英語表現を考えればよい。目的については，goalsとpurposesの違いが分かりにくいかもしれないが，場面と状況に対応する英語がわかれば正答を選ぶことができる。